

平成 28 年度事業報告

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

1. 定時会員総会に関する事項

平成 28 年 6 月 22 日、日本アクチュアリー会 大会議室にて会員総会を開催し、平成 27 年度事業報告の件を報告し、

第 1 号議案 平成 27 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財産目録の承認の件を諮り、原案どおり承認された。

2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、法人会員については入会 2 法人、退会 3 法人、個人会員については入会 367 名、退会 218 名があり、平成 29 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

正 会 員	1,654 名
準 会 員	1,298
研 究 会 員	2,057
小 計	5,009
法 人 会 員	109 法人
合 計	5,118 名・法人

3. 事業報告

〔試験関係〕

(1) 平成 28 年度資格試験の実施

平成 28 年 12 月 12 日、13 日及び 14 日の 3 日間、東京（TOC 五反田）及び大阪（天満研修センター）において実施し、平成 29 年 2 月 14 日に結果発表を行った。

第一次試験の総受験科目数は 3,509 科目、うち合格科目数は 552 科目であり、その結果、新たな基礎科目全科目合格者数は 77 名であった。

第 1 次試験 (基礎科目)	数学	生保数理	損保数理	年金数理	会計・経済・ 投資理論
受験者数 (人)	1,020	753	621	512	603
合格者数 (人)	201	80	82	85	104
合格率	19.7%	10.6%	13.2%	16.6%	17.2%

第二次試験の総受験科目数は 1,332 科目、うち合格科目数は 170 科目であり、その結果、(基礎科目も含めた) 新たな全科目合格者数は 85 名であった。

第 2 次試験 (専門科目)	生保 1	生保 2	損保 1	損保 2	年金 1	年金 2
受験者数 (人)	370	364	170	142	126	160
合格者数 (人)	44	53	17	18	17	21
合格率	11.9%	14.6%	10.0%	12.7%	13.5%	13.1%

(2) 平成 28 年度 CERA 試験の実施

平成 28 年 9 月 28 日に TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンターにおいて実施し、平成 29 年 1 月 16 日に結果発表を行った。

受験者数は 42 名、うち合格者数は 22 名（合格率 52.4%）であった。

〔教育・研修・研究発表関係〕

(1) 平成 28 年度アクチュアリー講座等の実施

アクチュアリー講座を、平成 28 年 5 月 10 日から平成 28 年 10 月 4 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目		受講者数
基礎講座 (12 科目)	・ 確率論 ・ 数学（確率論演習） ・ 生保数理 ・ 会計学 ・ 生命表	・ 統計論 ・ 数学（統計論演習） ・ 損保数理 ・ 経済学	・ モデリング ・ 年金数理 ・ 投資理論
特論講座 (7 科目)	・ 危険選択論 ・ 保険監督法 ・ ファイナンス数理	・ 社会保険論 ・ 年金実務法規 ・ リスクマネジメント論	・ 人口論

アクチュアリー追加演習講座を、平成 28 年 9 月 29 日から平成 28 年 12 月 1 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目（受講者数）	
追加演習講座	・ 生保数理演習（41 名） ・ 年金数理演習（44 名）	・ 損保数理演習（41 名） ・ モデリング演習（15 名）

関西委員会アクチュアリー講座を、平成 28 年 8 月から平成 28 年 10 月の期間で実施した。実施科目と受講者数は、生保数理：2 名、年金数理：4 名であった。

(2) 平成 28 年度年次大会の開催

平成 28 年 11 月 10 日、11 日の 2 日間、経団連会館及び東京ステーションコンファレンスにおいて、年次大会を開催した。

本大会の中で、次の特別講演が行われた。

・「中央銀行の課題と展望」 日本銀行政策委員会 審議委員 佐藤 健裕 氏

・「グローバル人は、コミュニケーション上手」

Hawaii Culture & Language Academy 代表 Stephen Outlaw - Spruell 氏

・「これから始まるデータに基づくがん対策」

国立がん研究センター がん対策情報センター長 若尾 文彦 氏

また、論文発表：12 編、プレゼンテーション：9 セッション、パネルディスカッション：5 セッションが行われた。

(3) 平成 28 年度 IT 研究大会の開催

平成 29 年 1 月 19 日、20 日の 2 日間、三井生命ホール（大手町野村ビル）において、IT 研究大会を開催した。

本大会の中で、次の特別講演が行われた。

・「フィンテックは金融と経済をどう変えるか」

東京大学大学院経済学研究科 教授 柳川 範之 氏

また、IT 研究会第 1 グループから第 6 グループが活動報告を行った。

(4) 例会の開催

平成 28 年度は合計 9 回の例会を開催した。詳細は次のとおり。

第 1 回 (H28.7.20)	死亡リスクの行動的要因—行動的・心理的要因を死亡リスクの評価に用いるべきか？	ピーター・バンソープ 氏 (RGA)
第 2 回 (H28.8.24)	経済シナリオ・ジェネレーター —実務への応用、課題と解決策—	コリン・ホームズ 氏 (Moody's Analytics 社)
第 3 回 (H28.9.1)	米国 SOA のアクチュアリー資格認定プロセス見直し (Changes to the SOA actuarial qualification process)	Stephen A. Eadie 氏 (SOA) Ken Guthrie 氏 (SOA)
第 4 回 (H28.9.14)	Risk Management : Then, Now and Tomorrow	Paul Embrechts 氏 (ETH)
第 5 回 (H28.10.17)	※プロフェッショナルリズム研修（継続教育）と共同開催 (10) ①参照)	
第 6 回 (H28.10.19)	長寿リスク移転取引のためのベースリスク評価手法の開発について	ジャッキー・リー 氏 (マッコーリー大学)
第 7 回 (H28.10.25)	プレディクティブ分析と保険契約者行動のモデリング	David Wang 氏 (ミリマン) Eileen Burns 氏 (ミリマン)
第 8 回 (H28.11.1)	ドイツの社会保障システムが提供する介護 (LTC) 保険の最新の改革	カリン・ニールセン 氏 (DAV)
第 9 回 (H29.3.10)	保険監督行政の現在と未来	箭野 拓士 氏 (金融庁監督局 保険モニタリング室長)

(5) 関西委員会例会の開催

平成 28 年度は合計 4 回の関西委員会例会を開催した。詳細は次のとおり。

第 1 回 (H28.7.8)	公的年金財政の仕組み・見直し・見直し	中嶋 邦夫 氏 (ニッセイ基礎研究所)
第 2 回 (H28.11.4)	フィンテックの現状と金融ビジネスへの影響	島田 直貴 氏 (金融ビジネスアンドテクノロジー)
第 3 回 (H29.1.13)	米国経済の動向、トランプ次期大統領の経済政策を踏まえた今後の見直し	窪谷 浩 氏 (ニッセイ基礎研究所)
第 4 回 (H29.3.7)	分科会による平成 28 年度活動報告	保険計理分科会 年金分科会 ERM 分科会

(6) ムーンライトセミナーの開催

平成 28 年 12 月から平成 29 年 3 月にかけて次の 5 つのテーマで開催した。

The Minimum Bias Procedure – A Practitioner’s Guide (January 2002)を読む	内藤 和晃 君 (早稲田大学)
グローバルな資本規制の動向と日本の保険会社への影響	土井 和行 君 (ウイリス・タワーズワトソン) 朝田 朋憲 君 (ウイリス・タワーズワトソン)
ニューラルネットワークの導入と実践	大塚 裕次朗 君 (ミリマン)
リスク計測モデル構築の導入と実践	濱村 文十 君 (PwC あらた有限責任監査法人) 岩本 直大 君 (PwC あらた有限責任監査法人)
損害保険における統計分析の実践 ～R を使ったデータ分析～	ASTIN 関連研究会委員 セミナー部会委員

(7) 関西セミナーの開催

平成 29 年 2 月 16 日に次のテーマで開催した。

・ 金利の期間構造モデル～スポットレートモデルからアフィンモデルへの展開～ ・ 標準利率についての考察 ・ 保険料算出原理の特徴づけについて ・ 医学的視点を踏まえた将来死亡率推計	京都大学大学院理学研究科 保険ゼミ学生
---	------------------------

(8) e-ラーニングの充実

e-ラーニングに次のコンテンツを公開した。

- ① 生命保険会社の保険計理人の実務基準 (平成 28 年 3 月 1 日改正版)
- ② 退職給付会計に関する数理実務基準・数理実務ガイダンス (平成 27 年 6 月 23 日改定版)
- ③ EU ソルベンシーII における LTGA 技術的仕様書・結果報告書 (その 1)
- ④ EU ソルベンシーII における LTGA 技術的仕様書・結果報告書 (その 2)
- ⑤ EU ソルベンシーII における LTGA 技術的仕様書・結果報告書 (その 3)
- ⑥ EU ソルベンシーII における LTGA 技術的仕様書・結果報告書 (その 4)
- ⑦ 平成 27 年度年次大会報告集「Predictive Modeling Applications in Actuarial Science」
- ⑧ 会報別冊第 257 号「MCEV の実務」1～4 章及び用語・略語集
- ⑨ 会報別冊第 273 号「ソルベンシー資本要件計算の標準的公式における基本的な前提 (EU ソルベンシー II)」1.標準的公式の全般的な構造、3.生命保険引受リスク
- ⑩ 会報別冊第 273 号「ソルベンシー資本要件計算の標準的公式における基本的な前提 (EU ソルベンシー II)」1.標準的公式の全般的な構造、4.損害保険引受リスク
- ⑪ 平成 27 年度年次大会報告集「CERA で学ぶリスクガバナンス」
- ⑫ 平成 27 年度年次大会報告集「ヘルス・プロモーション (健康向上施策) の動向と事例」
- ⑬ デバイス、キオスク、そしてアプリも！ー保険業界のリスクとチャンス
- ⑭ CERA について理解を深めよう～ERM 資格委員会の活動を振り返って～
- ⑮ 2014 年度 Open Discussion Forum 資料
- ⑯ プロフェッショナルリズム研修 (継続教育) 2016
- ⑰ 一から学ぶ国際会計基準 2016
- ⑱ 今日から始める経済価値ベース・ソルベンシー基準 2016～諸外国等の状況を中心に～

(9) アクチュアリー海外研修の実施

平成 28 年 11 月 2 日から 14 日の期間、生保、年金、損保をテーマとする 3 班に分かれて、第 6 回アクチュアリー海外研修を実施した。

シンガポールおよびインドにて開催し、インドではアジア・アクチュアリー会議（AAC）に参加し、プレゼンテーションを行った。参加者は、生保班 15 名、損保班 2 名、年金班 4 名であった。

(10) プロフェッショナルリズム研修の実施

① プロフェッショナルリズム研修（継続教育）を、平成 28 年 10 月 17 日に次の内容で実施した。

- ・アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論 片寄 郁夫 君（りそな銀行）
- ・ケーススタディ 藤澤 陽介 君（RGA）
- ・専門職の自立と自律 杉本 俊介 氏（大阪経済大学）

② プロフェッショナルリズム研修（初期教育）を、平成 29 年 2 月 24 日に次の内容で実施した。この研修は正会員資格の認定要件であり、受講修了者は 94 名であった。

- ・アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論 片寄 郁夫 君（りそな銀行）
- ・IAA 教育シラバスとプロフェッショナルリズム 村田 富生 君（三井生命）
- ・アクチュアリーと行動規範について 奈良 伸一 君（明治安田生命）
- ・生保のプロフェッショナルリズム 渡部 仁 君（日本生命）
- ・損保のプロフェッショナルリズム 金子 洋巳 君（損保ジャパン日本興亜）
- ・年金のプロフェッショナルリズム 片寄 郁夫 君（りそな銀行）

(11) CERA に関する研修等の実施

① 平成 28 年 9 月 2 日に SOA の Stephen A. Eadie 氏と Ken Gurthrie 氏による「CERA に関する講義」を開催した。

② 平成 28 年 12 月 2 日、3 日の 2 日間、CERA 試験の受験者を対象に、リスク管理・ALM 等に関する講義やケーススタディによるグループワークを行った。この研修は CERA 資格の認定要件であり、受講修了者 22 名であった。

(12) Open Discussion Forum について

平成 28 年 12 月 6 日、アクチュアリー会大会議室にて Open Discussion Forum を開催し、外国人アクチュアリーと英語によるディスカッション等を行った。

〔調査・研究活動〕

(1) 標準死亡率諮問委員会の開催

① 第 22 回標準死亡率諮問委員会が、平成 28 年 12 月 15 日に開催され、「生保標準生命表 2007（死亡保険用）」、「生保標準生命表 2007（年金開始後用）」及び「第三分野標準生命表 2007」について、平成 29 年度に継続適用することが了承された。

② 第 23 回標準死亡率諮問委員会が、平成 29 年 3 月 16 日に開催され、平成 30 年度に適用する標準生命表については、「生保標準生命表 2007（死亡保険用）」及び「第三分野標準生命表 2007」は改定することが、「生保標準生命表 2007（年金開始後用）」は継続適用することが了承された。

(2) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準及び保険監督の国際基準については、IASB（国際会計基準審議会）及び IAIS（保険監督者国際機構）において精力的な検討がなされており、それぞれの機関会員である IAA（国際アクチュアリー会）は、アクチュアリー専門職団体として、委託研究等の活動を行っている。本会は、IAA の委員会活動に積極的に参画している。

(3) 実務基準の整備

- ① 「全国共済農業協同組合連合会の共済計理人の実務基準」について、平成 29 年 3 月に所要の改定を行った。
- ② 「損害保険会社の保険計理人の実務基準」について、平成 29 年 3 月に所要の改定を行った。
- ③ 「退職給付会計に関する数理実務基準」及び「退職給付会計に関する数理実務ガイダンス」について、平成 29 年 3 月に所要の改定を行った。

(4) 保険商品数理に関する検討

生保商品特別検討 WG において、保険商品数理に関する検討を行い、平成 28 年 6 月、金融庁に「商品数理に係る現状での標準的な考え方（事例）の整理について（中間報告 その 2）」を提出した。

平成 29 年 3 月には、金融庁と連携した WG メンバーの意見交換会を 2 回開催した。

(5) 委員会等の活動

各委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチームにおいては、年度始に定めた目的・ミッションに基づく調査・研究などの活動を行い、その活動状況等を本会ホームページに掲載するとともに、調査・研究の成果としてまとめたものについては、会員専用のホームページ・会報別冊等を通じて公表した。

〔意見表明〕

(1) IAA のカウンスルでの投票（電子投票を含む）

- ① 平成 28 年 5 月、指名委員会の委託事項の改訂等に関して、賛成として投票を行った。
- ② 平成 28 年 9 月、ISAP の戦略的なアクションプラン等に関して、賛成として投票を行った。
- ③ 平成 28 年 11 月、委員長・副委員長等の任命等に関して、賛成として投票を行った。

(2) 平成 28 年 5 月、文部科学省に対し、「科学研究費助成事業（科研費）審査システム改革 2018」に対する意見を提出した。

(3) 平成 28 年 7 月、文部科学省に対し、高度情報化・データサイエンス社会における国民の科学的探究力強化に向けた新科目『数理探究（仮称）』内容への要望書を統計教育大学間連携ネットワーク（JINSE）の連携団体と連名で提出した。

(4) 平成 28 年 8 月、ASBJ に対し、実務対応報告公開草案第 47 号「リスク分担型企業年金の会計処理等に関する実務上の取扱い（案）」に対する意見を日本年金数理人会と連名で提出した。

(5) 平成 29 年 3 月、ASBJ に対し、実務対応報告公開草案第 51 号「債券の利回りがマイナスとな

る場合の退職給付債務等の計算における割引率に関する当面の取扱い(案)」に対する意見を日本年金数理人会と連名で提出した。

〔国際関係〕

(1) IAA 活動

IAA の委員会活動に積極的に参画し、IAA から IASB、IAIS 等への意見発信に参画している。なお、トピックスとしては次のとおり。

① ICA2026 招致

IAA 会議においてプレゼンテーション等の招致活動を行い、平成 28 年 11 月の IAA 会議において、東京が開催地に決定した。

② IAA 会議

平成 31 年秋の東京開催の決定を受け、HP や委員会等進発式、アクチュアリージャーナルで周知を図った。

(2) 第 44 回東アジア・アクチュアリー講座 (ASEA) の実施

平成 28 年 9 月 13 日から 16 日までの 4 日間にわたり、東アジアを中心とする 11 地域から 39 名の参加を得て、アクチュアリーが関わる日本の諸制度の状況等について講義を実施した。

(3) 国際会議等への派遣等

次のとおり国際会議等に会員を派遣した。

- ① 平成 28 年 5 月 25 日～29 日 IAA 会議 (於：ロシア サンクトペテルブルグ)
浅野 紀久男 君、吉村 雅明 君、古家 潤子 君、前林 義明 君、村田 富生 君、中村 吉男 君、
辻 芳彦 君、河野 年洋 君、重原 正明 君、近藤 達人 君、池田 真次 君、山崎 浩 君、
山田 龍太郎 君、清水 信広 君、関根 賢二 君、角 英幸 君、工藤 征夫 君
- ② 平成 28 年 5 月 31 日～ 6 月 2 日 AFIR/ERM 会議 (於：イギリス エジンバラ)
山下 実若 君
- ③ 平成 28 年 5 月 31 日～ 6 月 3 日 ASTIN コロキアム (於：ポルトガル リスボン)
白井 健史 君
- ④ 平成 28 年 6 月 26 日～ 29 日 IACA/IAAHS/PBSS/IPEBLA コロキアム (於：カナダ セントジョンズ)
岩崎 宏介 君、清水 信広 君
- ⑤ 平成 28 年 9 月 23 日～ 24 日 中国アクチュアリー会年次大会 (於：中国 上海)
工藤 征夫 君
- ⑥ 平成 28 年 9 月 27 日～ 28 日 シンガポール・アクチュアリー会の創設 40 周年記念式典等 (於：シンガポール)
工藤 征夫 君
- ⑦ 平成 28 年 10 月 23 日～26 日 SOA 年次大会 (於：アメリカ ラスベガス)
儀賀 信利 君
- ⑧ 平成 28 年 11 月 9 日～12 日 AAC 会議 (於：インド グルガーオン)
工藤 征夫 君
- ⑨ 平成 28 年 11 月 18 日～21 日 IAA 会議 (於：南アフリカ ケープタウン)
浅野 紀久男 君、角 英幸 君、村田 富生 君、吉村 雅明 君、河野 年洋 君、重原 正明 君、中村 吉男 君、
池田 真次 君、辻 芳彦 君、山崎 浩 君、山田 龍太郎 君、清水 信広 君、関根 賢二 君、工藤 征夫 君

〔評議員会〕

- (1) 平成 29 年 2 月 14 日に平成 28 年度評議員会を開催し、平成 28 年度事業報告、平成 29 年度事業計画（案）、ビッグデータへの取組みについて審議した。

〔産学共同〕

- (1) 京都大学より保険数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君（住友生命）、上原 尚君（住友生命）、大嶋 孝造 君（住友生命）、片寄 郁夫 君（りそな銀行）、佐内 利典 君（大同生命）、豊留 健 君（日本生命）、中山 素生 君（日本生命）及び南 嘉博 君（日本生命）を派遣した。
- (2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君（住友生命）、武村 昌紀 君（大同生命）及び恒川 啓之 君（日本生命）を派遣した。
- (3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君（住友生命）を派遣した。
- (4) 東京大学より社会数理先端科学の講師派遣の依頼があり、中村 亮一 君（ニッセイ基礎研究所）を派遣した。
- (5) 日本学術振興会 リスクベース設備管理第 180 委員会 損傷発生可能性評価分科会よりアクチュアリーとリスク評価について講演の依頼があり、工藤 征夫 君（事務局長）を派遣した。

〔表彰関係〕

- (1) 平成 27 年度資格試験成績優秀者の表彰

① 理事長賞の授与

平成 28 年 6 月 22 日に、浦 順貴 君（第一生命）、中村 慎二 君（個人）に理事長賞を授与した。

② 科目別成績優秀賞の授与

同日、数学 1 名、生保数理 1 名、損保数理 2 名、年金数理 1 名、会計・経済・投資理論 1 名、生保 1 1 名に成績優秀賞を授与した。

- (2) 優秀論文の表彰

① 本年度は 10 編の論文（IT 関係以外）の提出があったが、優秀論文の該当はなかった。

② 平成 29 年 1 月 19 日、IT 研究大会において、次の IT 関係優秀論文を表彰した。

「保険ビジネスにおけるオープンデータの利活用」

（IT 研究会第 2 グループ）

「IoT と歩む新たな保険ビジネス ～変革への切り札～」

（IT 研究会第 5 グループ）

〔広報・出版活動〕

- (1) 広報活動

- ① 学生を主な対象とした「第 25 回アクチュアリーセミナー」を平成 29 年 1 月 21 日に東京及び大阪において実施した。参加者は、東京 45 名、大阪 26 名であった。
- ② アクチュアリーについて、女性により関心をもっていただくため、女性向けチラシの作成を行った。

(2) 情報提供機能の充実

- ① 本会の HP で公開している「アクチュアリーという仕事の魅力」について、リニューアルを行った。

(3) 会報等の刊行

次のとおり各種の刊行物を発行した。

- ① 会報 第 69 号
- ② 会報別冊 第 277 号「第 6 回アクチュアリー会海外研修報告」
第 278 号「MCEV 原則 2016」
第 279 号「IAA における死亡率調査の概観／国内外の長寿化の動向と比較、
予測手法／死亡率の補整方法の比較」
第 280 号「第 56 回 IT 研究大会報告」
- ③ アクチュアリージャーナル
第 95 号、第 96 号、第 97 号、第 98 号
リスクと保険第 13 号 (2017)
- ④ 平成 27 年度 資格試験問題集
- ⑤ 平成 28 年度 年次大会報告集